

平成 27 年度第 1 回秋田県水産振興協議会 議事要旨

- 1 開催日時 平成 28 年 1 月 22 日（金）13:30～16:00
- 2 開催場所 ルポールみずほ 3 階 ゆり
- 3 出席者 加藤委員、渡部委員（代理：男鹿市産業建設部原田部長）、横山委員（代理：にかほ市農林水産課佐々木副主幹）、藤田委員、佐々木委員、伊藤委員、新城谷委員、柴田委員、小玉委員、柳原委員、古宇田委員、河内委員
【事務局】水産振興センター大竹所長、齋藤室長、山田部長
水産漁港課千葉課長ほか各班長及び担当職員
- 4 議長選任 委員改選後の初めての協議会のため、会務を総理する会長の選任を諮り、満場一致で加藤委員を会長に選任した。
- 5 議 事
 - (1) 水産施策・試験研究の動き
 - (2) 主要事業の実施状況について
 - (3) 水産関係の動向について
 - (4) 平成 28 年度の新規・拡充事業の概要について上記の議事についての質疑応答・意見等は次のとおり。

【質疑応答・意見等】

- 委 員 「商品力で打ち勝つ地魚加工品開発促進事業」による商品や、「水産加工振興対策総合推進事業」による実りのフェスティバルへの参加についての説明があったが、文字だけではイメージがわからないので、写真等を掲載してほしい。
- 事 務 局 次回からは、写真等を使い解りやすくする。
- 委 員 水産関係は、農林関係に比べ情報発信が少ない。フェイスブックを活用するなど、県民を巻き込むような情報発信が必要である。
また、「地魚加工品開発サポート事業」では、有楽町にあるアンテナショップと共同で事業を実施しているのか。有楽町のアンテナショップは、他県に比べて対応が消極的に感じるが。
- 事 務 局 フェイスブックについては活用していないが、より効果的な情報発信に努めたい。
有楽町のアンテナショップは（株）秋田県物産振興会が運営しており、所管は観光文化スポーツ部となるが、「地魚加工品開発サポート事業」を含め、共同で行う事業は無いものの、県産品の PR や水産物の取扱店の情報交換などを行っている。

委員 首都圏に住む孫が正月に遊びに来たときに、ハタハタの三五八漬けを食べさせた。東京では売っていないとのことであったが、ハタハタを使った商品は他にどのようなものがあるのか。

事務局 身のオイル漬け、ブリコの加工品、しょつつるで味をつけたせんべいなどがある。せんべいは、常温保存できるのでお土産に向いており、アンテナショップや秋田空港などで販売している。

委員 秋田オリジナルワカメの評判はどうであったか。

事務局 秋田市内にある大型の小売店で扱ってもらい、お客さんの反応は良かったと聞いている。ただ、メカブの食べ方が分からないとの問い合わせなどがあつた。

委員 「漁業就業者確保総合対策事業の担い手定着支援事業」で2名が途中辞退しているが、その理由は何か。

事務局 高校卒業してすぐの方や、若い方である。仕事がきつい、朝が早いなどの理由から辞退した。

委員 情報の提供や、周囲の方のフォローが必要である。

委員 「種苗生産・放流事業」については、放流した種苗の回収率はどのくらいか。

事務局 魚種にもよるが、トラフグは、500グラムサイズのもの30～40%程度、マダイ・ヒラメは漁獲対象年齢の幅があるため1～10%程度と変動がある。

委員 現在、にかほ市の漁業就業者数は181人であるが、このうち、60歳以上は40%程度で、20歳代は9人と少ない。漁業は、所得が低く、また危険が伴う命がけの仕事であることなどから新たに従事する方は少ない。この問題を解決するために浜値を上げて収入を増やすことができないものかと考えるが、量販店が価格を安く設定しているため、浜値が安くなってしまふ。

委員 (販売店側としても) 価格が安いからいいとも考えていない。資源が守られるような取組も必要であり、浜の思いもくみ取りながらやっていきたい。

委員 量販店が価格設定している事実はあると思うが、漁業については何十年前から悪化傾向にある。改善するためには、生産者、仲買業者、小売業者、消費者のつながり、お互いを理解する関係が必要である。

委員 漁業は危険であるというような話があつたが、現在の漁船は性能が向上しており、以前より怖くはない。また、県からは機器整備等への補助もあり、大変助かっている。

事務局 県民に新鮮な魚を食べてもらい、余ったものは加工品にするなどの取り組みが必要と思う。また、県外に対する情報発信はもとより、各浜で特色ある取組の実施(産地形成)が必要であると考えている。

- 委員 「ハタハタ資源再生緊急活用事業」の「03資源管理型集出荷体制構築事業」のシステムの導入とは、どういった内容か。
- 事務局 系統外出荷のハタハタを無くし、オス・メスを混ぜて出荷する無選別出荷や流通の見直しを行うものである。
- 委員 キジハタは、どういう魚か。
- 事務局: ハタ科の魚で、身が締まっていて非常に美味しく、高級魚である。温暖化の影響と思われるが、雑誌等によれば秋田県沖でも漁獲されてきている。鳥取県などでは、すでに種苗生産を開始している。
- 委員 ハタハタの今年度の漁獲枠は800トンと聞いていたが、新聞報道では漁獲実績が900トンを超えたとあったが、なぜ増えたのか。
- 事務局 終漁後、追加集計した漁協の直販と加工用冷凍品の分が超過したものである。
- 委員 お客様から、ハタハタはいつ頃になれば安くなるかと聞かれたことがあるが、漁獲状況がわからないので客に明確に伝えることができず、また、販売計画を立てることができなかった。漁獲状況の情報を提供してほしい。
- 事務局 情報提供については検討したい。
- 委員 秋田駅ビルのトピコの一階に魚を売っているところがあるが、そこで秋田の旬の牡蠣やハタハタなどを一品程度でいいので提供できないか。駅には県外の方もたくさん来ているのでPRになると思う。また、秋田のものを売っていることがわかるよう店舗先に幟があるとわかりやすい。
- 事務局 店舗は、市の運営であれば関係も考えられるが、個人経営のため経営者の判断によるところとなる。なお、幟については観光文化スポーツ部の所管課に伝えたい。

(5) その他

事務局から、次回の協議会の開催について、後日、日程調整を行う旨を伝えた。